

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1172300194		
法人名	メディカル・ケア・サービス南埼玉株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム和光中央		
所在地	埼玉県和光市中央2-5-84		
自己評価作成日	平成24年10月03日	評価結果市町村受理日	平成24年11月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/11/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigvosoCd=1172300194-00&PrefCd=11&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所		
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88逸見ビル2F		
訪問調査日	平成24年10月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

安心して穏やかに生活していただける手助けのひとつとして、認知症緩和ケア「タクティールケア」を平成20年から取り入れ、現在6名のスタッフが実践している。ホーム前の庭には、季節の花や野菜が植えられ、入居者や、時には近所の人たちの憩いの場となっている。
また、保育園との交流やボランティアの受け入れも多く、地域に密着したホームとなっている。今年の社内表彰制度では、ご家族様満足度賞で全国第2位(3ユニット部門)を受賞。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の人々とながらりながら生活するためには、事業所のことをまずは知っていただくことが大切だと考え、交流の機会をたくさん作っている。ベンチを設置した庭は地域の人々に解放されているため、親子連れ等が休憩の場として気軽に利用している。利用者と家族の良い関係が継続できるよう、行事案内の方法を工夫したり、できるだけ希望にそったサービスを提供できるように、今年、家族会を発足している。また、質の高いサービスを全職員が提供できるように、毎月研修を行い、専門職としての知識を身につける時間を設けている。このような日々の取り組み姿勢が今年の社内表彰「ご家族様満足度賞全国第2位」の成果につながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者は新人採用の際には、必ずホームの理念を理解させている。また、職員は運営理念を噛み砕いた“クレド”を常に携帯し、申し送り後に必ず“ケアの信条”を唱和している。	運営理念がわかりやすく記された「クレド」を全社員が携帯している。毎日の申し送り後に、その中の「信条」を唱和することで心に深くきざみ、迷った時の判断基準として実践に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、諏訪神社境内の掃除を行ったり、納涼祭や花火などの行事にも参加している。毎週水曜日にはホーム前にて、パンの移動販売が行われ、近所の方と一緒に買い物をするなど、交流が図れている。	多くのボランティア受け入れや保育園との交流の他、庭の解放等で事業所に日常的に地域の人々の出入りがある。花火大会の時には、近所の企業のご厚意により利用者は高層の部屋の中から観賞している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生の受け入れを積極的に行い、人材育成の貢献をしている。また、不定期ではあるが認知症相談会を開催しており、地域の方の認知症や介護に関する相談を受けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	リーフレットの公共機関への設置や、避難訓練への地域参加についてなど、会議の場へ出た意見を積極的に実践している。	民生委員、家族、市職員、地域包括支援センター職員、自治会長を主なメンバーとし、2ヶ月に1回定期的に開催している。報告だけでなく、事故対応、市の取り組み等の情報交換の良い機会となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市主催の地域ケア会議への参加や書類提出など随時、市と連携している。利用相談や空室状況など連絡を取り合い、連携を図っている。	運営推進会議、地域ケア会議は、毎回活発な会議であり、市の担当者とは積極的に意見交換を行いながら良い協力関係を構築している。会議以外にも、相談、報告等でまめに窓口を訪れ、連絡を密に取っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全面を考慮し、玄関の施錠は行っているが、施設内は入居者が自由に行き来できる環境にある。離床センサー等使用の際は、他に方法がないか十分検討した上で行うなど、漫然と続けない為の取り組みを実践している。	身体拘束についての研修を行い、禁止の対象となる具体的な行為について周知徹底している。安全面を優先し、玄関の施錠は行っているが、利用者の状況をみながら出来る限り自由に行動できる環境作りをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを作成し、虐待防止に努めている。また、虐待に関する研修を定期的に行い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括支援センターと協力し、必要な時に必要な人を支援できる体制がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間を取り、わかりやすく説明している。特に利用料金や入居後に起こりうる事故のリスク、重度化や看取りについての対応、医療連携体制の実際などについては説明し、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプラン説明時に家族から意見、要望を伺う機会を設けているほか、玄関にご意見箱を設置し、直接本部に届くシステムを取っている。入居者から要望があった場合、即座にユニットで話し合い、利用者本位の運営を心掛けている。	面会時によく話を聞くようにしているが、職員に直接話しにくいことも、アンケートを利用し、要望を本部に届けることができる体制を整えている。意見、要望があった時には話し合い、運営に反映させるように努めている。	家族会を発足したことで、今後、家族との関係がさらに密になり、利用者本位のサービスがレベルアップすることを期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	SSS(スタッフ・サジェッション・システム)を活用して、職員の意見を運営に反映させている。	管理者は、日頃から職員が意見を言いやすいような雰囲気作りを心掛け、会議では必ず全員が発言できるよう配慮している。直接本部に意見、提案を届けられるシステムがあり、それらには必ず何らかの返答がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護職員や事務、調理などの実績を評価する様々な表彰制度があり、やりがいや向上心の手持てる環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外の様々な研修に参加出来るようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	埼玉県グループホーム協議会に加入し、ブロック研修で行われる事例検討などにできる限り参加している。社内では職員同士の交流会や、管理者の情報交換の場など複数設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に生活歴や性格、疾病、不安材料、どのように生活したいかなど十分に聞き取り、職員がそれらを理解することで信頼関係構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、家族や困っていること、不安なことなどゆっくり聞き、安心していただけるよう丁寧な対応を心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の面談時に、ニーズの把握を十分に行い、必要に応じて他の事業所のサービスに繋げるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護者、被介護者という立場ではなく、生活を共にする家族という関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	納涼祭や鍋パーティーなど様々な行事に、ご家族も一緒に参加し過ごすことで、職員と家族、本人との関係を深めながら入居者を共に支えていく関係作りを築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの美容室に行き続けている入居者や、近隣の友人がふらっと気軽に訪ねて来たりと、一人ひとりの生活習慣を尊重している。	家族とのつながりを継続するために、家族会を発足したり、行事案内の送付方法を検討し、関係が希薄にならないよう支援している。昔からの友人の来訪は歓迎している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活における様々なレク活動を通じ、それぞれが得意分野を引き出して交流を深めるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了し他施設等に移った場合でも、面会に行くなど関係を大切にしている。また、家族から相談があった場合でも快く相談にのっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者や家族との会話の中で、入居者の暮らし方や希望を察しケアに生かしている。	「一人ひとり全て理由があって行動している。」と考え、仕草、表情等、常に気づきを大切にしている。気づきは、記録に残して職員が共有し、利用者の意向にそったケアの実践に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族やこれまで利用していた事業所、関係各所から生活歴や性格、趣味等を聴き取っている。また、本人自身の語りも大事にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの生活リズムを理解すると共に、行動や小さな動作から感じとり、本人の全体像把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者や家族には日頃の関わりの中で思いや意見を聴き、反映させるようにしている。アセスメントを含め、職員全員で意見交換やカンファレンスを行い、ケアプランを作成している。	家族、利用者の意見を聞いた後、全職員で話し合い、現状に即した介護計画を作成している。話し合いには、必ず看護師が同席しており、医療面の意見、提案も介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録(食事、排泄、バイタル、水分摂取量等)など日常的に記録するものと、サービスチェック表や介護記録で情報共有をしている。その他、ユニットの連絡ノートで情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者や家族の状況が変化した場合に、その状況を踏まえ支援内容や方法を柔軟に変更している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭りへの参加や、近隣保育園との交流、多数のボランティアを受け入れ、生活の質向上に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族の希望に応じて、月2回の往診を受ける体制がある。その他、外部のかかりつけ医への定期受診や緊急時など、その必要性に応じて職員が受診を支援している。	原則家族対応にて希望するかかりつけ医を受診可能であるが、必要な時は職員も受診支援を行っている。内科は、夜間でも往診が可能であり、いつでも適切な医療を受けられるような体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2日看護師を配置しており、入居者の健康管理や状態変化に応じた支援を受けている。また、24時間気軽に相談できる関係が保たれ、医療機関とも密に連絡がとれる体制が確保されている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後、定期的に面会し、医療機関との情報交換に努めている。また、退院時には、ホームでの生活における注意点など、適切なケアが提供できるよう医師に指導を仰いでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の在り方、方針など、入居契約時に家族に説明している。また、家族の希望により看取りを行う際には、医師に相談の上、家族協力を前提に看護師、介護職員と共にチームで支援していく体制がある。	重度化した場合や終末期の在り方については、契約時に説明しているが、近くなった時に改めて話し合いの機会を設定している。宿泊も含めた家族の協力を前提に、医師、看護師、職員がチーム支援を行い看取りを行った経験がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変時に備え、マニュアルが整備されている。また、応急手当や初期対応についてホーム内で研修を実施している。消防署が行う救命講習には積極的に職員を参加させている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、年に2回避難訓練、消火器の取り扱いなどを行っている。自治会の総会等に参加し、災害時の協力依頼など、いざという時の協力体制確保に努めている。	年に2回災害に対する訓練を行い、昼夜間わずの火災、地震等に全職員が対応できるようにしている。災害時の地域住民の避難場所も確認し、地域の防災活動にも参加予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの人格の尊重について、常日頃職員に話し、指導している。申し送りなども入居者に聞こえないよう配慮し、スタッフルームで行っている。	申し送りが、利用者の誇りやプライバシーを損ねることにならないよう、話す場所や声の大きさに気を配っている。排泄介助には特に気を遣い、そっと行うよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員側で決めたことを押し付けるような事はせず、複数の選択枠を提案し、一人ひとりの入居者が自分で決める場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりに体調に配慮しながら、その日その時の本人の気持ちを尊重して、出来るだけ個別性のある支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の整容の支援や、希望する入居者については職員と一緒に、希望する洋服や化粧品を購入している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	基本、食事については厨房にて準備しているが、ご飯、みそ汁は各ユニットで盛り付けをしている。誕生会のケーキ作りやおやつ作りを、入居者と一緒に行っている。	基本的に、栄養管理された献立を専門の職員が作り提供しているが、外食、おやつ作り等楽しみの機会も作っている。畑で採れた野菜を食材に利用することもあり、季節感を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が立てた献立に基づき、専門の調理師が食事を提供している。入居者の状態によってはトロミなどを使用し、毎食後、食事量の記録を残している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けや義歯洗浄を入居者の能力に応じて支援している。夜間は義歯をお預かりし洗浄管理を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、個々の排泄パターン把握に努め、自立に向けた支援を行っている。失敗した場合には、入居者の自尊心を損なわないため、入居者に気づかれないよう処理するなど、きめ細かい排泄支援を行っている。	できるだけトイレで排泄できるよう、個々の排泄パターンを把握し、声掛けをしている。排泄支援はできるだけ本人、他の利用者にも気づかれないようそっと行い、誇りを損ねない対応に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	普段から各入居者の排便状況を把握し、水分摂取や運動を働きかけ便秘予防に努めている。また、個別に手作りヨーグルトによる支援も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間は特に希望がない為、夕食前に支援することが多いが、本人の希望により家族と外出前に入浴したり、家族支援の下、入浴するケースもある。また、季節に応じたしょうぶ湯やゆず湯など楽しんでいただいている。	必要な時には随時入浴可能であるが、昼食後～夕方の時間帯に入浴することが多い。利用者の希望を優先し、気分よく入浴できるよう脱衣場で音楽を流したり、入浴剤を使用する等の工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者一人ひとりの生活習慣を尊重し消灯時間は設けていない。昼夜逆転の方はいないが、眠りの浅い方には日中の活動を工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬の説明書のコピーを薬箱内側に貼り、職員が内容を把握できるようにしている。服薬時には投薬カードの確認、職員2名での名前、時間、薬数確認を確認後服薬していただき、飲み込み確認も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や能力を發揮してもらえよう、お願いできる仕事を頼み、都度感謝の気持ちを伝えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者が日常的に庭での外気浴や散歩を楽しめるよう支援している。また、買い物や外食を楽しんだり、車で紅葉を楽しんだりなど積極的に外出支援を行っている。	その日の体調、天気を考慮しつつ、散歩、外気浴を日課とし、個別の外食支援も行っている。家族との時間も大切にしており、外食、墓参り等、家族の協力を得ての外出支援を行うこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て小額のお金を所持している方もいるが、基本的には家族よりお金を預かり、金庫にて管理し、個別の買い物など本人の希望と能力に応じて使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望により、日常的に電話や手紙が出せるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気を保つために家庭にあるような家具を設置するよう努めている。入居者が快適に過ごすことができるように、暖房中の加湿状態や着衣の量に気を配ったケアを行っている。	空間の室温、湿度管理に加え、衛生管理として、除菌、消臭にも気を配っている。居間には、家庭用の食器棚を設置し家庭的な雰囲気を醸し出している。廊下の壁には、利用者の写真がセンス良く飾られ、希望する家族にはそれを差し上げている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアには、食事や作業で使用するテーブルのほか、ソファを置き、気の合った方とくつろげる空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にはエアコンと洗面台のみを備え付け、それ以外は入居者の馴染みのものを持ち込んでいる。また、自身で作成した作品を部屋に飾り、居心地のいい空間作りに努めている。	タンス、仏壇等馴染みの物、使い慣れたものを持ちこみ、居心地良く過ごせるよう工夫している。それまでの生活習慣を継続し、ポータブルトイレを設置することも可能である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の状態に合わせて、手すりや浴室、トイレ、廊下などの移住環境が適しているかを見直し、安全確保と自立への配慮をしている。		